

コミュニティ・スクールの運営と効果に関する一考察

1220549 藤本悠里

指導教員 中村直人

高知工科大学 経済・マネジメント学群

本研究では、コミュニティ・スクールの運営と効果について考察している。研究背景は2つあり、1つは、文部科学省が2022年度までに全ての公立学校でのコミュニティ・スクール導入を目標としているが、導入率はあまり高くないことである。もう1つは導入している学校を見ると、運営方法や取り組みは異なる状況にあることである。今後、コミュニティ・スクールを導入する自治体や学校は増えていくだろう。しかし、ただ導入するだけでは成果は十分に得られず、形骸化する恐れがある。

そこで研究目的を、コミュニティ・スクールの現状と課題を先行研究や実地調査を通して検討し、運営方法や取り組み等について分析することとし、調査結果から、意義は何か、成果が得られる学校運営とはどのようなものかについて提言した。

調査方法は、高知県佐川町立黒岩小学校と徳島県東みよし町立三加茂中学校を対象に、インタビュー調査とアンケート調査を実施した。両校の特徴は、CSマイスターが配属されていることである。また、導入年数による成果や課題の違いを比較することができる。

分析結果として、黒岩小学校は「当事者意識」、「行政の支援」、「地域全体での取り組み」、「先を見る力」が、三加茂中学校は「共有」、「地域全体での取り組み」、「環境づくり」、「トップダウン型」、「当事者意識」がキーワードであった。

結論として、共通したのが「当事者意識」、「目的等の共有」、「トップダウン型で導入し、地域全体で取り組む」であった。この3つを意識することが学校運営では重要である。そして、行政には「トップダウン型でのCSの導入」、「学校や地域の実情に応じた支援」を、学校には「取り組みや活動における目的等の共有」、「地域の人が活動しやすい環境づくり」を、地域には「支援者から当事者への意識の変化」、「先を見る力の醸成」をそれぞれ提言する。

キーワード コミュニティ・スクール 学校運営 地域人材

本論文を作成するにあたり、ご指導を頂いた指導教員の中村直人教授に心より感謝いたします。また、実地調査に協力して下さった、黒岩小学校校長・黒瀬忠行氏、三加茂中学校事務室長・赤松梨江子氏、黒岩小学校と三加茂中学校の教職員及び児童生徒の皆様には、厚く御礼申し上げます。